

三菱自を希望退職、PR会社設立

浜村隆洋さん(49)は、24歳で三菱自動車工業に入社、希望していた広報部に配属された。

「この会社の広報部もそうですが、メディアに良い記事がたくさん載ればいい、という感じでした。でも、販売店に出向したとき、単にメディアに載るだけでは、商品は売れないとも身に染みしました」

その後、広報部に戻ったが、平成元年、総勢10人でモータースポーツを担当する子会社「ラリーアート」に出向させられ



リタイアレス時代の

様々な転職術

た。上司と意見が合わなかったのだ。

「最初は落ち込みました。でも、社長はパシエロの商品企画をした人で、パリダカを活用して車の知名度を上げることになっていました」

しかも稟議書や判子が山ほど必要な本社とは違った。社長がウンといえは、新たな企画が次々と通った。浜村さんは、水

浜村隆洋さん(49)



出向で得た新視点を活用

話題を作ることが重要なポイントが参戦して優勝するまでのストーリーを作ったんです。しかも、物語性を持って。日本人ドラマ

に直結した。

ところが、平成12年、三菱自工はリコール問題などの不祥事が相次いで起こり、激震に見舞われた。希望退職者が募られ、2000人以上が会社を去った。どうすべきか？

「子供がまだ小学3年で、家のローンもあり。でも、ちょうどおとと大きなことをしたいと思っているときでした」と迷った末に退職。

早稲田大学の同期で、農林中央金庫に勤務していた望月徹さんとともにPR会社「蒼天」(東京・青山)03・5778・

5929)を起した。

1年目は、それまでに培った人脈で英国政府後援イベントを獲得、2年目からはホームページで新たな顧客も増え、事業は順調。会社の内部留保を増やしつつ、年収は1000万円に迫るといふ。

「蒼天独自のPRプログラムで売り上げが伸びた会社はいくつもあります。それに、同僚の望月は金融のスペシャリスト。金融関係のPRでは日本一の会社にしたんです」と、浜村さんは意欲満々だ。(風樹茂)